

活動名：第5回福島空港公園8人制ジュニアサッカーフェスティバル

日程：平成26年8月30日（土）～31日（日）

会場：福島空港公園 緑のスポーツエリア

参加：エンジョイ4クラス 18名

帯同：渡邊コーチ

報告：渡邊コーチ

結果：4位（6チーム参加）

●喜多方東コラソン ●中央ドリマ △県北キッズ

○常葉SSS ○小野FC

私が帯同したエンジョイ4クラスの第5回福島空港公園8人制ジュニアサッカーフェスティバルについて報告します。

今大会は、選手たちに「考えて走る」ということを強く求めました。この「考えて走る」ということは、一見簡単そうに思えて実はものすごく奥が深く難しいことです。しかし、いきなり選手に「今日は、試合に出たら考えて走るように」と言ってもチンプンカンになると思い、選手全員に「試合に勝つにはどうすればいい？」「点数を取るには？」「シュートを打つには？」「味方がボールを持っていたら？」「相手がボールを持っていたら？」など試合で起きる現象をイメージさせました。選手たちからの一つずつ意見を出してもらい、みんなでプチ討論。堅実な意見、裏をついた意見、まったく関係のない意見など、改めて選手たちの柔軟な発想力に驚かされました（良い意味でも悪い意味でも）。そして、もう一度選手全員に「みんなが言ったような、相手が来る前にシュートするとか、相手のボールを奪いにいくとかというようなプレーをするには、どう動けばいいの？」と問いかけると、「走る」とコーチ、そんな当たり前のこと聞かないでよといった感じに即答されました。私は心の中で、しめしめと思い、「けど、ただ走ってもボール奪えないよね？それに他の選手はどうするの？」とさらに質問攻めを行い、最後は全員が「考えて走る」と答えました。

1 試合目

● 4-5 喜多方東コラソン

全体的に良い雰囲気です。試合に入ったものの、誰も積極的にシュートを打たず、逆に相手に先制点を許し、1-5と4点差を付けられてから、やっと目が覚めたのか怒涛の攻撃を見せるも後一歩及ばず、敗れました。点差こそ僅差でしたが、個の部分で考えるとよく1点差まで追い上げたといった感じです。

1試合目終了後、私は次の試合の審判に入るため、選手たちに次の試合までにやってほしいことを伝え、試合開始10分前には、チームの備品を分担してもらってピッチ

に来るように伝えました。

2 試合目

● 0-1 2 中央ドリマ

約束の時間になっても選手たちはピッチに来ない。試合開始5分前に集まり、チームの備品も持って来ていない。選手全員が何も考えていないということだ。誰のための大会なのか。残念でした。私に言われて、やっと記憶が蘇る。考えていない上に、他人任せでした。ハーフタイムに「何も考えず、ただひたすら走るだけ。それでは、ボールを奪うことは出来ないよ。今日のテーマは。」と言われて、またしてもやっと記憶が蘇る。唯一の救いは、どんなに点差が離れても誰ひとり最後まで諦めずに1点を取りにいく姿勢でした。

2 試合目終了後、わずかな時間でしたが、選手たちに再起を促しました。このままブルブルと行くのか。どうしたいのと。決死して技術が劣るわけではない。ただ、単に自分たちで自滅しているだけです。コーチもいないし、試合がないから、何して遊ぶといった感じです。無駄に体力を消耗するから試合で走れなくなり、疲れれば思考回路も停止です。いまここで、この子達に気付かせないといけなれないと思ひ、あえて自分達で2 試合目の反省と次の試合をどのように戦うかを考えさせ、私は審判に入りました。

3 試合目

△ 1-1 県北キッズ

最高の試合の入り方及びゲーム内容でした。遠目からでも積極的にシュート打つ。一人一人が、次のプレーを予測し、味方や相手選手との距離に注意しながら状況にあわせた走りをみせていました。“考えて走る”を実践していたので、先制点を奪うことに成功。自分達一人一人がやるべきことを果たせば結果はついてくるということを知ったようでした。しかし、ここでサッカーの神様がちょっとしたイタズラをします。終了間際に同点ゴールを決められてしまいました。一瞬でした。練習でも度々みられる甘えでした。

正直なところ、2 試合目終了後、どのように自分たちで気持ちを立て直すのか、不安の方が大きかったのですが、しっかり自分たちで立て直してきました。一人一人が自分と向き合い、どう行動すればいいのか考えたその結果の引き分け。今までのエンジョイ4クラスの選手なら、「コーチ、話し合ってもやっぱり勝てなかったじゃない。」といった感じですが、「DFが全員上がっていたよね。」とか「自分のゴール前で中にパスしたら危ないよ。」とか「A君がフリーだったよ。」などと試合の分析をしていました。それぞれが考えてプレーしていた証拠です。けど、勝てないということは、まだ何か足りないな

い。それ何なのか。サッカーの神様からの選手たちへの宿題なのでしょう。

翌日。アップの時もふざけている選手がいれば、注意する。今までなら、全員ふざけてしまう。昨日までの他人の顔色を見て意見するような弱い選手は誰ひとりいません。サッカーの神様がくれた宿題を終わらせ、ここに新生エンジョイ4クラス誕生です。

4 試合目

○ 12-0 常葉SSS

ピッチ内外での立ち振る舞い最高でした。ベンチにいる選手も声を出して応援やアドバイス。ピッチ上の選手も自分の特徴を最大限に発揮しました。

新生エンジョイ4クラスの初戦を見事勝利で更なる進化を！と期待しましたが、そこはまだU-10年代。甘くはありませんでした。目を離すと鬼ごっこなど遊び放題。試合では見ることの出来ない切り替えの速さ。驚きです。すぐさま、全員を集めミーティング。みんなに「昨日は、何で負けたの？」「どうして勝てなかったの？」「今日はどうして勝てたの？」と尋ねました。反応は昨日よりも何倍も良かったです。やっちゃった。みんなそんな顔をしました。

5 試合目

○ 5-2 小野FC

奪われたボールを奪い返す。自分の責任を持って全うする。4試合目よりもさらに自立した選手。失点すると自分達でなぜ失点したのかお互いに確認しあい、修正し合う姿が、みられるようになりました。ゴールの枠にシュートを打てば何かが起きる。魂のこもったシュートを防ぐのは難しいです。最後まで諦めずに頑張ったから結果がついてくるのです。それがわかった36分間でした。

今回、選手全員に伝えたこととして、攻撃はシュートで終わることとプレーの優先順位です。ボールを持ったら点を取るためにシュートを打てるか、打てないならドリブルで・・・(詳細は省略します)。故に試合中何度もフリーの選手にパスすれば簡単にシュートまでもっていくことができるのにドリブルして囲まれ相手に奪われたりと効率の悪い攻めをする機会が多くなります。そんな選手にパスしなさいと言えば簡単ですが、それでは、折角のチャレンジが水の泡になってしまいます。特にこの年代は、積極的にチャレンジして、良い失敗をたくさん経験し、そこから成功するためのコツを掴んで欲しいと考えています。そのために、選手に気付かせるための言葉掛けをしています(なぜ、シュートを打てなかったのかな?など)。まずは、自分のプレースタイルを確立してから次のステップへ。焦りは禁物です。走りながら真っ直ぐドリブル出来ない選手が、

10mいや5m先の選手に正確なパスが出来るのでしょうか。10本中2本くらいはできるかもしれません。たまたま通ったパスで一喜一憂するのか。選手の将来を考えれば良く解ることだと思います。とにかく選手たちには、“考える”癖をつけて欲しいと思います。それは、サッカーをしているときだけでは、考える力を養うことは出来ません。日常生活での過ごし方が非常に重要です。速く正確に判断し実行する。スキル同様に磨いていきたい部分です。

最後の試合で選手全員に話しましたが、みんなが着ているユニフォームは、10年の歴史があります。先輩たちが必至に一生懸命1歩ずつ積み重ねてきた10年の想いがこのユニフォームに積もっています。みんなもFC Alliezの一員としてこのユニフォームを着て戦えることに誇りをもつようにと話したところ、ある選手が言いました。「Alliez魂ですね。」と。その後のみんなはAlliezの名に恥じないプレーをしていました。このことは絶対に忘れないでください。苦しい時、きっと君たちの力になります。

このブログがアップされるころには、エンジョイ4クラスみんなは、リフティングが100回をゆうに超えていることでしょう！期待していますよ（笑）

最後になりますが各チームの保護者、コーチ、大会運営の（公財）県都市公園・緑化協会 空港公園関係者の皆様、二日間ありがとうございました。

名将への道のりは果てしない ～稀代の迷将 渡邊～



